

## 漢字 N3 の長音書き方における誤用分析

—ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の三年学習者に対する記述的研究—

サラ・ヌルジャナ

20130830011

### 要旨

本研究は、ジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年学習者の漢字 N3 の長音書き方の誤用のカテゴリー、原因からどのように誤用のタイプが表れるのかを探るものである。本研究は、誤用の分析で、量的、質的の三つ研究方法を使用する。研究対象は 31 名のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年学習者である。データを収集するため、テストと面接により行った。テストは誤用のカテゴリーを知るため、面接は誤用のタイプと誤用の原因を知るために使用した。

本研究の結果からは、漢字 N3 の誤用のカテゴリーは 7 つある。テストから発見したカテゴリーは長音ぬきが 21%、長音の書き間違いが 7%、漢字の読み間違いが 24.5%、長音の置き間違いが 7%、長音以外の間違いが 12%、一つ以上の誤りが 3%、答えがないは 25.5%である。それから、面接の結果は誤用の原因から表れた誤用のタイプが三つであり、一つ目、**incomplete application of rules** は長音と短音の間違えた、漢字が分からない、漢字の読み方を忘れた、ほかの漢字と間違えたという誤用の原因が分かる。それから 二つ目、**overgeneralization** の原因は同じ間違いを繰り返すである。「おお」の長音を書くとき、「おう」に書いた。三つ目、**false of concepts hypothesized** の原因は平仮名の書く力が足りない、漢字の訓読みと音読みが間違えたである。これは本研究の結果から発見した結論である。

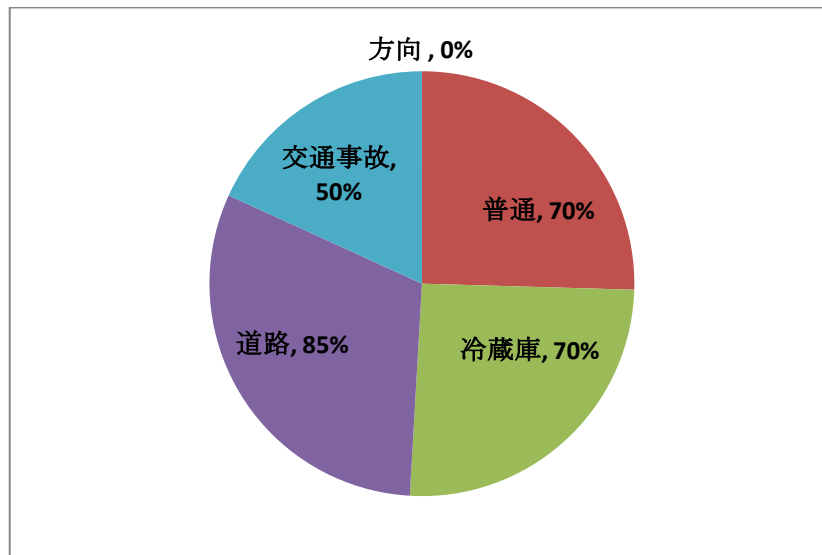
キーワード : 漢字 N3、長音、書き方、誤用分析

## 1. 序論

日本語学習者にとって、特にインドネシア人、日本語を勉強することが難しい。原因はインドネシアの文字と日本の文字に違いがある。日本の文字は、平仮名、片仮名、と漢字の三種に分ける。漢字は最も難しい。なぜかという、漢字の中には訓読みと音読みと言う読み方がある。

音読みには長音がある。長音は「ゆう」の「ゆうびん」、「ねえ」の「ねえさん」、と「とう」の「とうさん」のような長い音である (Sudjianto, 2004:21)。研究を始まる前に、予備調査を行った。ジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科教育学科における六名の四年学習者を予備調査のサンプルにした。予備調査の目的は学生の漢字の読み方の長音の書き方の能力を測ることである。予備調査の結果は以下のようなものである。

表 1.1  
予備調査のパーセント



筆者は選択式五問いを作成し、六名のサンプルに挙げた。表 1.1 の結果は次のようには説明する。問一は「ほうこう」の書き方は全員正解である。しかし、問二は「ふつう」と問三は「れいぞうこ」の書き方は六人からただ二人しか正解しないが、問四は「どうろ」の書き方が正解はたった一人だった。それから、問五は「こうつうじこ」の書き方が六人から正解は三人である。結果を見ると、六名のサンプルから全員正解なし。学習者は漢字の読み方を読むのが知っているのだが、漢字の読み方を書くとき、非常に難しいのである。

背景にもとづき、本研究は漢字 N3 の長音書き方に対する誤用が表れるのかということを探る。それから、誤用の原因からどのように誤用のタイプが表れるのかを探りたいと思う。なぜかというと、漢字の読み方の長音の誤りを減らすためである。学習者にも漢字の読み方の長音を書くとき、ますます気を付けなければならない。

研究の問題設定を二つに分け、一つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に対する漢字 N3 の長音書き方の誤用のカテゴリーがどのような表れるのか。二つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に対する漢字 N3 の長音書き方の誤用の原因からどのように誤用のタイプが表れるのか。

研究の問題設定の上で、この研究には二つの目的がある。一つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に対する漢字 N3 の長音書き方の誤用のカテゴリーがどのような表れるのかを知るためである。二つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に

対する漢字 N3 の長音書き方の誤用の原因からどのように誤用のタイプが表れるのかを知るためである。

本研究の意義は二つに分け、理論的な意義と実用的な意義である。理論的な意義として、特に漢字 N3 の研究日本語に関する研究を豊かにすることである。実用的な意義として、次のように三つに分ける。

- a. 筆者に漢字 N3 の長音の書き方における誤用分析の研究を豊かにするため。
- b. 教師が研究の結果から語彙と漢字の教え方と方法を高めることができる。
- c. 学習者が研究の結果から漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を減らすために同じ誤りを起こさないようにすることができる。

## 2. 本論

本研究には誤用分析を使用しており、サンプルの漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を測るためである。誤用を測る後、量的研究方法と質的研究方法を使用する。量的研究方法はサンプルの漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を測るに使っており、質的研究方法は漢字 N3 の長音書き方に対する誤用の原因からどのように誤用のタイプが表れるのかを知るに使用する。研究の対象にはジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語学科の学生の 2014 年度三年生である。サンプルとしては 31 名である。

データの収集は、テストと面接により行った。テストは漢字 N3 の長音書き方に対する誤用のカテゴリーを知るために用いられた。それから、面接は漢字 N3 の長音書き方に対する誤用の原因から誤用のタイプを知るために用いられた。

- a. 本研究は次の段階で行う。
- 1) テストの問題を作る。
  - 2) 問題用紙を対象に上げる。
  - 3) 問題用紙に書いてあるからの漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を分析する。
  - 4) 問題用紙で発見した誤用を分析した後、誤用の原因とタイプを探るために面接をする。
  - 5) 問題用紙と面接からのデータを収集した後、データ結果を発表する。

b. 誤用分析の段階

- 1) データを集める
- 2) 誤用を類別する
- 3) 誤用を分析する
- 4) 分析した誤用を説明する

記述的なテストの結果のため、次の図で誤用のランキングを示す。

表 1. 2  
誤用のランキング

ランキング	問題	パーセント	ランキング	問題	パーセント
1	凍る	48.4 %	11	左右	16.1 %
2	横断歩道	48.4 %	12	安定	16.1 %
3	調味料	45.2 %	13	無料	16.1 %
4	終了	41.9 %	14	非常口	16.1 %
5	遊園地	38.7 %	15	営業	12.9 %
6	大型	32.3 %	16	正確	12.9 %
7	文法	32.3 %	17	経営	12.9 %

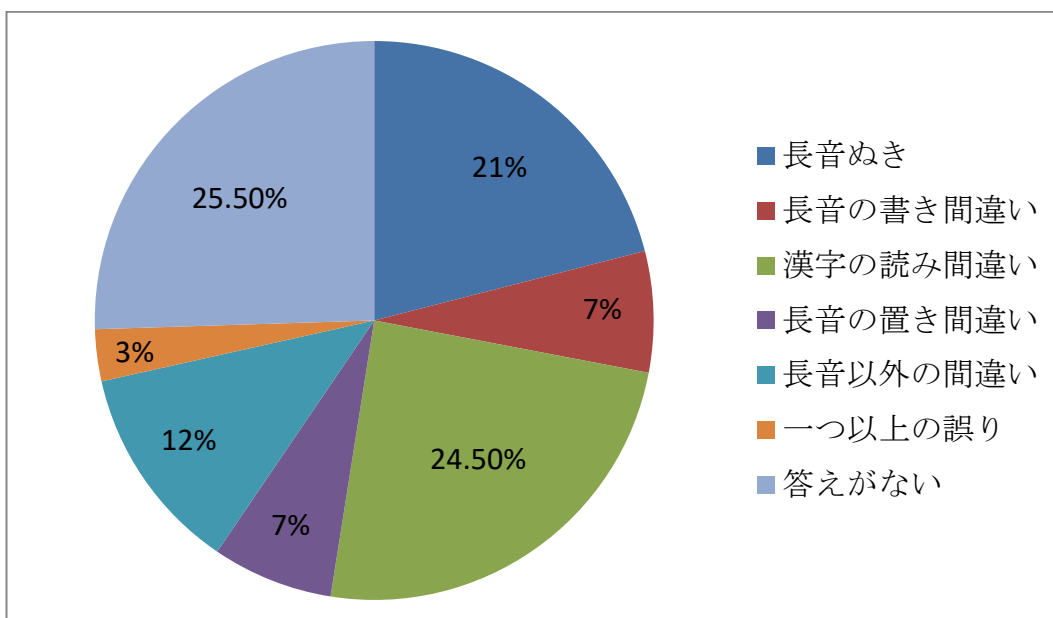
ランキング	問題	パーセント	ランキング	問題	パーセント
8	牛乳	22.6 %	18	表現	12.9 %
9	野球	22.6 %	19	大さじ	9.7 %
10	駐車	16.1 %	20	関係	3.2 %

上記のデータにもとづき、最も誤用が多いのは「凍る」の問題と「横断歩道」の問題であり、48.40%である。その一方、誤用が少なかったのは「関係」の問題で、3.20%ことが分かる。テストと面接のデータの結果から二つの問題設定を答えた。

a. 漢字 N3 の長音の書き方の誤用のカテゴリー

データ結果から見れば、長音ぬき、長音の置き間違い、長音の書き間違い、漢字の読み間違い、答えがないという誤用のカテゴリーを発見した。

表 3. 3  
誤用のカテゴリーのパーセント



## b. 漢字の長音書き方の誤用の原因から表れる誤用のタイプ

面接から発見した漢字の長音書き方の誤用の原因から表れる誤用のタイプは三つである。Richard (1970) は *overgeneralization*, *ignorance of rule restrictions*, *incomplete application of rules*, *false of concepts hypothesized* の誤用のタイプが四つあると述べている。

### 1) Incomplete Application of Rules

面接から見つけた理由は、長音と短音が間違い、漢字が分からない、読み方を忘れた、ほかの漢字と間違っただけである。全部の理由は *incomplete application of rules* に含まれているのである。

### 2) Overgeneralization

このタイプは一人のサンプルにしか表れた。サンプルは同じ間違いを繰り返すと *overgeneralization* になる。それは「おお」の長音を書くとき、「おう」に書いた。

### 3) False of Concepts Hypothesized

このタイプは長音に関する誤りではないから、平仮名の書く力が足りない、漢字の訓読みと音読みが間違っただけである。

## 3. 結び

本研究には問題設定を二つに分け、一つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に対する漢字 N3 の長音書き方の誤用がどのような表れるのかということである。データ結果からの答えは誤用のカテゴリーは七つある。それは長音なし、長音の書き間違い、漢字の読み間違い、長音の

置き間違い、長音以外の間違い、一つ以上の誤り、答えがないである。

二つ目は 2014 年度のジョグジャカルタムハマディヤ大学の日本語教育学科の三年生に対する漢字 N3 の長音書き方の誤用の原因からどのように誤用のタイプが表れるのか。それから、面接の結果は誤用の原因から表れた誤用のタイプが三つであり、一つ *incomplete application of rules* は長音と短音の間違えた、漢字が分からない、漢字の読み方を忘れた、ほかの漢字と間違っただという誤用の原因が分かる。それから、二つ *overgeneralization* の原因は同じ間違いを繰り返すである。「おお」の長音を書くとき、「おう」に書いた。三つ *false of concepts hypothesized* の原因は平仮名の書く力が足りない、漢字の訓読みと音読みが間違っただである。これは本研究の結果から発見した結論である。

筆者は本研究を行った後、次の提案と今後の課題を進める。

- a. 教師には長音の授業が必要だと考える。例として文字語彙の授業に長音を教えられる。テストの結果から、漢字の読み間違えたことがあるので、教師は漢字の音読みと訓読みの読み方も教えなければならないのではないかと考える。それは、学習者の漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を減らすためである。
- b. 学生には漢字を忘れないように自立し勉強をしなければならない。
- c. 今後の課題として、本研究まだ研究してないことはどのように漢字 N3 の長音書き方に対する誤用を減らすかということである。次の研究者は漢字と長音に関する新しい教え方と教材を実験するのが良いと考える。それから、本研究は日本語総まとめ漢字 N3 と日本語総まとめ語彙 N3 から漢字のデータを収集した。次の研究には熟語漢字と漢字の送り仮名の中



でその一つをテーマにしに研究を行うことを進める、別のリソースを使用することにより研究するも良いと考える。

#### 参考文献

Ellis, Rod. 2003. *The Study Of Second Language Aquisition*. Inggris: Oxford University Press.

Gufron, Syamsul. 2015. *Kesalahan Berbahasa Teori dan Aplikasi*. Yogyakarta: Ombak.

Pateda, Mansoer. 1989. *Analisis Kesalahan*. Flores: Nusa Indah.

Richards, Jack C. 1970. "A Non-Contrastive Approach to Error Analysis". Jurnal dipresentasikan di konvensi TESOL.

Sakade, Florence. 2003. *A Guide to Reading & Writing Japanese Third Edition*. Tokyo: Tuttle.

Sato, Eriko. 2015. *Learning Japanese Kanji Practice Book Volume 1*. Tokyo: Tuttle.

Sudjianto, dan Ahmad Dahidi. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.

佐々木仁子、松本紀子「日本語総まとめ N3」株式会社アスク,2010.

林四郎「例会新国語辞典」三省堂, 1985.

宮野晃「棒暗記しない英熟語」ベレ出版, 2005.